

職員の皆さん

令和6年度予算編成スタートにあたっての市政運営の基本的な考え方

市長就任以来、市民の皆様の「声」を大切にすることを第一に、職員の皆さんと共に市政を進めてきました。

市民の皆様から高いニーズが寄せられていた、中学3年生までの小児医療費無償化の実施や中学校の全員給食に向けた取組の推進など、「子育てしたいまち」に向けて大きな一歩を踏み出しています。

令和6年度は、中期計画の折り返しとなる重要な年です。基本戦略である「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち」の実現に向けて、あらゆる取組を加速させていかなければなりません。市民の皆様「声」をしっかりと聞きし、その立場に立って施策を考え、予算編成に取り組んでください。

子育て世代に「ゆとり」を実感していただく取組をはじめ、年齢や性別、障害の有無に関わらず誰もが安全・安心に暮らせるまち、国内随一のウォーターフロントを持つ横浜ならではの魅力やにぎわいの創出など、あらゆる視点から基本戦略の実現に向けた取組を検討してください。

そして、デジタルの力で利便性を高め、市民の皆様がより暮らしやすさを実感できるよう、あらゆる取組でDXを推進してください。

また、「地球温暖化」ではなく「地球沸騰化」とまで言われる今、横浜が持続可能な都市として発展していくためには、脱炭素化の強力な推進が不可欠です。「GREEN×EXPO2027」の成功とその先を見据え、今私たちがすべきことを真剣に考え、行動していきましょう。

財政状況の厳しさが増す中でも、持続可能な市政運営を実現するためには、「財政ビジョン」「中期計画」「行政運営の基本方針」の『3つの市政方針』を強く意識して、公共投資全体の最適化や市債の計画的な活用、事業評価による新陳代謝などにより、減債基金活用額の段階的な縮減を図りながら、歳出改革を一層推進していかなければなりません。

大胆な「創造・転換」につなげていくために、一人ひとりが「自分事」として、前例に捉われず、デジタルや民間のノウハウも積極的に活用しながら、より良い手法を模索してチャレンジしてください。

あらゆる政策・施策・事業を通じて、市民の皆様のために何ができるか。事業に税金を使うことが、市民の皆様にも納得・共感していただけるか。これらを「市民目線」で常に考え、必要な事業をいち早くお届けできるよう、「スピード感」を持って業務を遂行してください。

また、市民の皆様からみれば横浜市役所は一つの組織です。部署の壁を越え、市として市民の皆様のために何をすべきか、という「全体最適」の視点で常に政策を考えてください。

そして、適切なデータに基づいた企画の立案、KPIの設定、事業の効果検証を必ず行ってください。

引き続き、市役所一丸となって、市政を前に進めていきましょう。

どうぞよろしくお願いいたします。

横浜市長 山中竹春